



## ママ友会議

# 楽しい社会科 復帰の相談も

第28回ママ友会議を7月18日に子どもも含む、参加者10人で開催しました。会議では、西大阪支部の中路先生を講師に迎え「子どもと楽しむ授業づくりー社会科だって楽しくなる」というタイトルで

「社会科は教えるのは苦手」、「生活科から急に内容が難しくなると、テストも難しい」という若い先生が多々いるというところで今回の企画になりました。

替え歌やラップで歴史や地理をおもしろく教える方法や、発問や資料の活用で子どもたちが生き生きと学び、社会科好きになっていく様子がわかりました。やる気が湧き、元気になるお話でした。

育休中の新しい参加者も来てくれて、来年度の復帰について相談ののりました。次回は12月17日に行う予定です。



# 核兵器廃絶 反戦平和 子どもに伝えたい

原水禁大

「原水爆禁止2022年世界大会」が8月4日〜6日に行われ、広島大会に大阪市教4人、大教組15人が参加しました(半数以上が青年)。3年ぶりに被爆地・広島で開催され、「核兵器廃絶」「反戦平和」のためにたかう海外代表や全国から約1600人が集まり、熱気に包まれました。

開会総会で、今年6月の「核兵器禁止条約」第1回締約国会議で議長を務めたアレキサンダー・クレメント氏(オーストリア大使)が発言。採択された「ウーン宣言」が「核兵器廃絶を求め多くの国々の立場を代弁したものであると確信している」など、核兵器廃絶に向けた世界の大きな流れを強調しました。

国際会議には、ウクライナとロシアの市民運動の代表が参加。それぞれの国での反戦運動をオンラインで交流しました。参加した小学生が代表の方に直接質問をする場面もありました。

ヒロシマデー集会では、全国各地の代表団が運動を交流。東京の学生ピースツアーで参加した大学生は「次はわたしたちが核兵器廃絶への歴史を刻んでいくべきです」と表明。大きな拍手が送られました。

「教職員平和のつどい」や原爆資料館見学、「被爆者の話」などにも参加しました。感想を紹介。教室でもロシアウクライナの戦争について話題になる中、直接広島に行つて学びたいと初めて参加しました。国際会議では各国の人々から放射能の恐ろしさ、戦禍の中、逃げ惑う人々のことを聞きま

## 定年引上げ 労働条件改善を

市労組連は定年引上げにかかる諸制度について、22年度春闘要求書を3月17日に提出し、3月24日以降協議を重ね、8月17日に最終の団体交渉を行いました。

「教職員平和のつどい」での「締約国会議」に参加された瀬戸麻由さんのお話がとても印象に残っています。

## 核開発している時ですか

### 国際平和シンポ 樋川和子さん

国際平和シンポジウム「核兵器廃絶への道」世界を『終わりに』にさせないために」が7月30日開かれました。樋川和子大阪女学院大学教授(大阪府教職員組合の記念講演者)のパネル討論の一部を紹介いたします。

核使用による環境破壊より、むしろ「核抑止」政策で核兵器を持つていること自体が人類ではなく地球の存続に与える影響を考へる時に来ている。人新世と言われているが、地球が人間の活動によって枯渇され破壊されている。脱炭素をやっている時に、核兵器



樋川 和子

観点から核兵器の問題を捉え直す。人間だけの問題ではないと私は思っている。

## 仲間が増えた!

### はげます取り組み通じ

教採突破講座では、組合員さんのニーズに応じて日程を設け、面接練習などを行っています。講座の中でも案内し、アンケートでも組合へのお誘いを行っています。その結果、突破講座をきっかけに4人の方が組合に加入されました。また、今年度の加入者は20人を突破しました。

コロナの心配が続く中でも、支部や専門部は学習会や映画会、バーベキュー、ビアパーティーなどを開催しています。また分会訪問やグループLINEを通じて仲間とつながり、はげます行動が進められています。このような取り組みが次々と新しい仲間を迎える結果につながっています。

さあ2学期が始まりました。まず1人、あなたの周りの人に声をかけてみませんか。